

## 普通科「日本史 B」授業実践紹介

授業者：大森 雄介

学 年：2年

単元名：武士の社会～北条氏の台頭～

### 単元のねらい（7つのチカラ：考える力・自立する力）

中世社会の根幹にある荘園公領制を理解し、その維持のために武士が発生し台頭してくる過程を考察する。また、鎌倉幕府の中世的要素を正確に把握させ、それが土地を媒体とした封建制度に根付く地頭  
の存在によって構成され成立していることを考察する。また、それぞれの事象に関して教科書から必要  
な情報を生徒自身の力で学び取る力を養う。

### 単元の流れとパフォーマンス課題

#### 【単元の流れ】

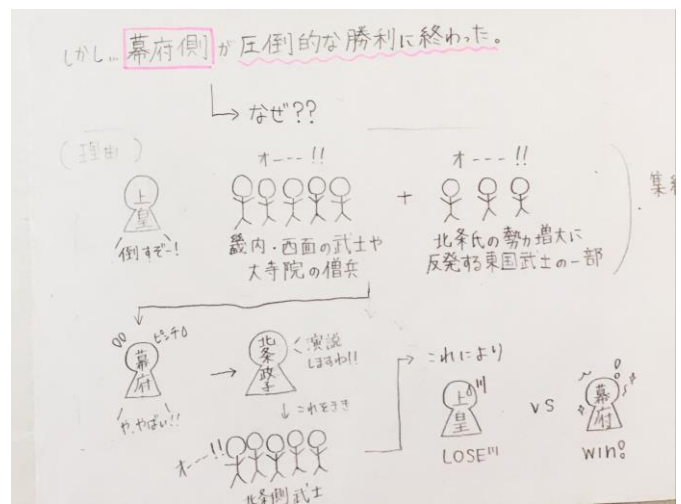
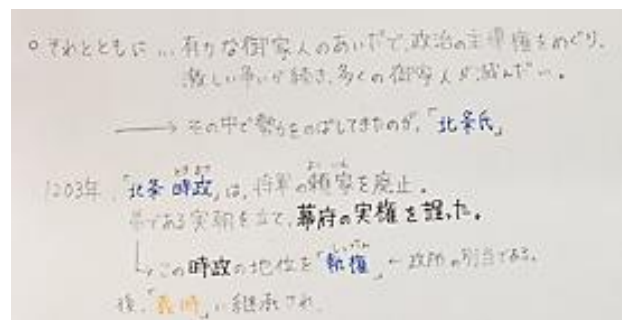
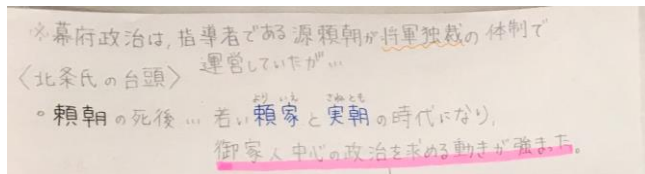
- ①院政と平氏の台頭
- ②鎌倉幕府の成立
- ③武士の社会（本時）
- ④蒙古襲来と幕府の衰退
- ⑤鎌倉文化

#### 【パフォーマンス課題】

- 「白紙プリントに、教科書の内容を自身の力でまとめよう。」  
「質問に答えるために必要な情報を自身の力で選び出そう。」

#### 【授業の流れ】

- 1、「幕府と朝廷はなぜ戦うことになるのか」という問いに対して、教科書を読み、  
自身の力で白紙のプリントにとそのために必要な情報をまとめる。
- 2、先生の質問に対して自身の力で回答する。
- 3、どこが重要なポイントなのか自身の力で確認する。



(上の図は生徒成果物。文字や図を工夫して情報を整理するように取り組んでいる。)

### パフォーマンス課題の評価（ループリック）

|   |  |
|---|--|
| A | 教科書の内容を自身のオリジナル性をもってまとめることができた。また、質問に対し必要な情を選び答えることができた。 |
| B | 教科書の内容を記述し、まとめることができた。また、質問に対し必要な情報を選び答えた。               |
| C | 教科書の内容を記述し、まとめることができた。                                   |
| D | 何もしなかった。   |

## 単元を通して身につけてほしいこと

- ・受け身の授業ではなく、主体的に授業に臨む力（教科書から自ら情報を読み取り、まとめる活動から）
- ・自身の力で解決していく力（先生の質問に対して、自らまとめた情報を活用して答える活動から）
- ・熟語の意味を理解する力（教科書の内容を理解する活動から）
- ・歴史的事象を理解する力（なぜその事象が発生したのかその理由を把握する活動から）

## 実践の背景

- 日本史の授業は暗記することがメインとされがちで、それに伴い、授業でのプリントも穴埋め形式のものが多く。しかし、授業者の思いとしては、「暗記する力」ではなく「考え、理解する力」を身につけてほしいと感じている。授業者からの説明を聞き、板書された語句をプリントの空欄に記入するという場面をなるべく減らし、生徒が常に思考力を使い、誰かに教えてもらうのではなく、自身の力で学ぶ姿勢を授業の中で増やしていきたいと考え、今回の実践に至った。

## 授業改善のアプローチ

- 上記の背景から、まずプリント構成を大きく変えた。今までは穴埋め形式のプリントであったが、全く白紙のプリントを準備した。授業者からは内容については何も言わず、生徒たちは自身で教科書の指定された箇所をまとめる活動を行った。
- 生徒自身がどこが重要なポイントであるのか見極めることは難しそうであったので今後はそれが実現できるアプローチの仕方を考えていきたい。

## 生徒の変容

### 【考える力】

- ・今までの授業の様子とは大きく異なり、集中して内容理解に努める雰囲気生まれた。
- ・「内容を自分のものにできている」と感じている様子があった。
- ・普段聞き流していたことが多かったが、「これはどういう意味なのだろう」と疑問を抱くことができるようになった。

### 【自立する力】

- ・今まではすぐまわりに答えを聞こうとしていた姿が、自身の力で課題に取り組む姿に変化した。

## 評価（地歴科長期ルーブリック・評価の内訳）

| 観点                              | 到達度                                |                                   |   |
|---------------------------------|------------------------------------|-----------------------------------|---|
|                                 | 達成度 1                              | 達成度 2                             | 達成度 3   |
| 歴史に関わる事象について主体的に学ぶ力             | 歴史事象に興味をもつことができる。                  | 歴史事象に興味をもち、その背景について考えることができる。     | 歴史事象について自ら疑問をもち、考えることができる。                      |
| 歴史に関わる事象について考察し、課題解決に向けて構想する力   | 事象に対して、なぜそのようなことが起きたのかを認識することができる。 | 事象に対して、なぜそのようなことが起きたのかを認識し、説明できる。 | 事象に対して、なぜそのようなことが起きたのかを認識し、日本と世界の動向を関連付け、説明できる。 |
| 歴史に関わる事象についての情報を適切かつ効果的に調べまとめる力 | 資料を通して情報を読み取ることができる。               | 複数の資料から情報を読み取り、それらを結びつけることができる。   | 資料を通して情報を読み取り、それをもとに当時の社会情勢の理解に結びつけることができる。     |
| 歴史に関わる事象について多面的・多角的に理解する力       | 用語について理解できる。                       | 用語・事象について多角的な視点から理解できる。           | 用語・事象について多角的な視点から理解し、説明できる。                     |

今回の実践では、特に観点上から2つめの達成度2ができるようになることを目指した。

評価の内訳：考查点（60%）・パフォーマンス点（40%）